

5 内視鏡センター



内視鏡センターは、内視鏡を用いた診断と治療を行う診療部門であり、消化管内科、肝・胆・膵内科、呼吸器内科、上部消化管外科、下部消化管外科、呼吸器外科、放射線科、救命救急センターの協力を得て運営されている。上部消化管（食道・胃・十二指腸）、小腸、下部消化管（大腸）、胆膵、気管支、胸腔の内視鏡検査を、それぞれの専門分野の医師が担当している。日本消化器内視鏡学会及び日本呼吸器内視鏡学会の認定指導施設であり、各学会の指導医・専門医を中心に検査・治療がなされている。2022年度の年間内視鏡検査件数は上部消化管6,619件、下部消化管5,354件、胆膵544件、気管支314件、その他（小腸内視鏡やカプセル内視鏡）718件であり、新型コロナウイルス感染症拡大下で患者数の減少するなか、総計13,549件の内視鏡検査・処置を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大への対策としては、問診票の作成、パーテーションの設置、検査時の患者さんへのマスク装着、スタッフへの感染対策（フェイスガード、マスク、長袖エプロンなど）の徹底をおこなっている。

内視鏡センターでは、AI、拡大内視鏡、細径内視鏡、超音波内視鏡、画像強調内視鏡（NBI、BLI、LCI）、カプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡などの最新の内視鏡機器を積極的に取り入れ、常に精度の高い内視鏡診断と治療を提供している。2015年11月から新内視鏡センターが開設され、オリンパスに加え富士フィルムメディカルの最新システム、動画像モニタリングシステムも導入した。さらに、リカバリーベッドも11床に増設し鎮静内視鏡検査の件数も大幅に増加した。患者さんが楽に内視鏡検査が行えるようになり、充実した内視鏡診療の環境が整備されている。

また、内視鏡技術の向上に伴い、内視鏡を用いた幅広い治療が行えるようになっており、治療内視鏡が検査全体の約15%を占めている。がんを含む消化管腫瘍の内視鏡的切除術は、食道・胃・大腸合わせて2022年度は980件を安全に実施した。また、吐血や下血、閉塞性黄疸などの救急疾患に対する緊急内視鏡も早急に対応できるような体制を整えた。

5-1 年度別検査及び治療処置件数

(件)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022年度 構成比率(%)	
上部消化管	7,554	7,506	6,825	6,843	6,619	48.9	
下部消化管	6,139	6,069	5,027	5,497	5,354	39.5	
ERCP	574	586	544	557	544	4.0	
気管支鏡	468	416	280	283	314	2.3	
その他	497	476	819	721	718	5.3	
合計	15,232	15,053	13,495	13,901	13,549	100.0	
上部消化管	(静脈瘤治療)	(71)	(77)	(69)	(39)	(43)	2.1
	(消化管拡張術)	(136)	(69)	(65)	(29)	(23)	1.1
	(内視鏡的腫瘍切除)	(157)	(216)	(147)	(151)	(14)	0.7
	(ERCP治療処置)	(442)	(470)	(544)	(686)	(794)	38.6
	(止血)	(102)	(98)	(107)	(116)	(132)	6.4
下部消化管	(内視鏡的腫瘍切除)	(1,144)	(1,100)	(900)	(972)	(966)	47.0
	(止血)	(72)	(54)	(68)	(54)	(85)	4.1
合計	(2,124)	(2,084)	(1,900)	(2,047)	(2,057)	100.0	

5-2 検査件数の年度別推移

